

巻頭特集

## 学習指導要領，指導要録が変わって，ここが変わる！

1 新学習指導要領の実施に向けて 無藤 隆

### 思考力・表現力をはぐくむ授業と評価のポイント [教科別]

2 国語 場面と場面を関係づけて読み，中心人物の変容をとらえる「読むこと」の授業展開

6 算数 算数的活動を通して育てる数学的な思考力・表現力

10 理科 子どもの思考の過程が見え，的確な評価ができる授業展開と板書

12 社会 子どもが課題意識を高め，学習問題をつくる様子を評価する授業展開

### 新しい指導要録の趣旨を生かした通知表の作成

14 通知表がこう変わる，授業がこう変わる！

18 さらに便利に使いやすい！「ひまわり先生」

20 ひまわり先生実践事例 1・2・3

# 新 学習指導要領の 実施に向けて



白梅学園大学教授 無藤 隆

## 1 指導の実質の充実を図る

一部の教科について授業時間を増やした。また習得・活用・探究という学習指導のあり方を示した。さらに学習評価の4観点の方針を明らかにした。そういったことは、その個別のことを超えて、学習指導要領の考え方が実質的に教室に入り、授業を変え、それを通して、学力が上がり、生きる力の増進につながることを期待してである。

今回の指導要領の改訂は、教科の授業時間が増えることや小学校の英語活動の時間が新設されたくらいが大きいことで、全体として小幅のものに止まる。そこで目指しているのは、諸々の改革が個別の学校において、実際に授業が変わり、教師の指導が改善され、子どもの学習のあり方が向上していくようになることにある。

例えば、学習評価において「指導と評価の一体化」を進めるとある。そのことは以前の改訂においても繰り返し指摘されてきたことである。それを再び強調しているのである。それは実際に単元計画の中身において具体的に形にし、授業の特定の活動として評価を行い、その評価結果を使う時間を設けようと提案しているのである。

習得・活用・探究というあり方にしても、それは単なる指導上の配慮点を言っているのではない。習得や活用や探究の各々に力点のある指導の時間を用意し、さらにその間のつながりを明確にしていく指導を形にすべきだと述べているのである。

## 2 思考力・言語力の指導を高める

学習指導の評価の観点として、「思考・表現」が強調されているのは、PISAの学力調査におけ

る読解力の得点の低下に端を発している。だが、それもまた、単に学力調査への対応ということではない。改めて学校の教育の柱が子どもの思考する力を育てるところにあるということと、その思考力は言葉を用いることと密接不可分の関係にあることを確認しているのである。

ここでも、単にそういったことが大事だということに止まらず、いかにしてそれを日々の授業において形をなすようにするかが問われている。

すべての教科・時間において、子どもの考えたことを言葉や図表にするように働きかける。そのためのやり方を授業において子どもに理解させ、活用できるようにしていく。

子どもの表したものを受け止め、さらなる思考の展開へと発展するように仕向ける。いろいろな子どもの発言のつながりが感じられるように、板書などにおいて構造的な関連が明確になるようにする。思考が根拠を持ちうるように、論拠に立ち戻り、明示する習慣をつけさせる。子ども同士の学び合いの機会を増やし、そこでの表現が互いの思考を活性化するよう手助けしていく。

子どもの日頃の学びの姿を記録し、またパフォーマンス評価などにより思考の定着をチェックして、思考力の指導を深める。教師が情報を提供し、学習活動を活発にさせるに止まらず、一人一人の子どもが指導する方向に沿って確実に思考を展開できているどうかをとらえて、それを発展や補充の指導に生かす。思考・表現といった評価の観点は評価活動とそれによる指導の充実に生かすためにこそある。

## 場面と場面を関係づけて読み、 中心人物の変容をとらえる「読むこと」の授業展開

新学習指導要領・国語科は、中央教育審議会の答申に基づき、「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てること」に重点を置いて内容が改善された。特に、小学校では、「日常生活に必要な基礎的な国語の能力を身に付けること」ができるよう改善が図られた。（『小学校学習指導要領解説国語編』より一部抜粋）

これらは、国語科の学習（授業）において、「話す・聞く」「書く」「読む」といった言語能力はもとより、児童の日常生活や他教科で活用できる能力をしっかり身に付けさせるために、より意図的・計画的な授業作りが求められることを意味する。本稿では、「読むこと」の学習を中心に、思考力・表現力をはぐくむ授業をするためには、どのようなことに留意すればよいか考えていきたい。

### ◆年間指導計画を立てる

―場面毎に心情を想像する授業からの脱却―

従前から行われてきた場面毎に心情を想像しながら読み進める授業は、オーソドックスな方法であり、有効な読みする方法である。しかし、すべての文学的文章を同じ方法で読んだとき、次のような問題点が浮上する。

- 登場人物の心情を読むことに終始している。
- ワンパターンの読み方になっているため、読みの力が積み上げられていかない。
- 教材がもっている特性が十分活かされない。
- 学習場面に限定した思考が多くなり、場面

と場面を関連させた読みをすることが難しい。

- 丁寧に読む一方で、毎单元、多くの時数を費やしている。

そこで、これらの問題点の改善も図りながら、1年間を見通して学習計画を立てる必要がある。1年間を見通してとは、何月にどの教材を学習するのかを確かめることではない。それぞれの教材の特性を踏まえて、その単元でどのような読みの力がつくのかを考えることである。これまでどのような読みの力がついているのか、これからつけるべき読みの力は何かをリストアップして、明確にし、学習計画を立てることが重要である。

新学習指導要領では、学習の系統性が重視され、「読むこと」の文学的文章について、低学年「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」→中学年「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」→高学年「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」と明記されている。

学年の発達段階に応じ、年度当初に各单元でつけたい力を明確にし、単元構成や発問を工夫することにより、読みの力を積み上げていくことが可能になる。

### ◆音読の徹底

―読む絶対量を確保する―

単元の構成や発問を工夫すれば、必ずしも場面毎に詳細な読解をしなくても、読みの学

習は成立する。このように主張したとき、必ずといっていいほど、場面毎に詳細に（丁寧に）読み進めることなく、作品を深く理解したり味わったりすることができるのか、という疑問が出される。

授業者が意図する読みの学習となるかは、音読をどれだけしているか（作品を何回読んでいるのか）に深く関係する。

学習が始まってから、一度や二度読んだだけで考えている、あるいは、その学習場面を断片的に読んで考えているのでは、皮相的な読みになるのは当然である。授業はもとより、家庭学習としても音読に取り組みせ、10回以上を目標に数多く作品を読ませたい。それが土台となり、作品全体を見渡した読みが可能になる。

音読の絶対量を確保することが大切なのは、どの学年にも言えることである。目的に応じて、幅広く色々な文章を読むことや、黙読を効果的に活用することと合わせて、指導していきたい。

以下、4年生の教材「ごんぎつね」新美南吉作を例に、具体的な指導と評価の在り方を考えてみたい。

## ◆教材の特性・特徴

### —「ごんぎつね」はどんな教材か—

物語のはじめと終わりで、中心人物（ごん）の変容が顕著である。中心人物（ごん）の言動についての叙述が多く、心情の変化がとらえやすい作品である。

新美南吉の作品は、絵本になっているものがいくつもあるので、「同じ作者の他作品を読む」活動が展開しやすい。

これらの特性を活かして、中心人物「ごん」の心情の変化と変化した理由を焦点化して読み、新美南吉の他作品との比べ読みを通して、作品「ごんぎつね」の読みが深まることをねらった単元構成を考える。

## ◆単元でつきたい力

—明確な単元の目標と具体的な評価規準—  
単元でつきたい力を、学習指導要領の指導事項と年間指導計画で確認し、単元の目標と単元の評価規準を設定する。

### ◎単元の目標例（読むこと）

- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の言動や心情の変化などについて、叙述を基に想像して読むことができる。
- ・作品を読んで考えたことを、互いの考えの共通点や相違点を明らかにして話し合い、自分の考えを深めながら読むことができる。

### ○単元の評価規準例（読む能力）

- ・場面の移り変わりに注意しながら、中心人物「ごん」の変容を読み取り、変容した時機や理由について、自分の考えを書いている。
- ・「ごんぎつね」や新美南吉の他作品を読んだ考えを、互いの考えの相違点を中心に話し合い、自分の考えの深まりについて、気付いたことを書いている。

つけた力が、単元の中だけでなく、児童の日常生活や他教科、今後の国語学習に役立つものであるかをチェックする。

→日常読書において、中心人物の変容をとらえ、主題を考えることに役立てる。

→今後の国語学習において、同じ作者の他作品を読み比べて、作品理解に役立てる。

## ◆単元構成の工夫

—児童にとって目的意識の明確な学習計画—  
授業者が明確な目標や評価規準をもって指導するだけでなく、児童が目的意識を強くもって学習することが大切である。

### ■第一次【初発の感想・学習課題設定】

- ・初発の感想を書く。
- ※学習課題を設定する際の参考にする。  
また、単元の途中や終末に読み返させ、児童が自分の読みの深まりに気付くのに役立てたい。
- ・学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。
- ※学習課題は授業者が、単元の目標や単元の評価規準、作品の特性を踏まえて設定する。児童が一番考えさせたいことは、学習課題をどうするかではなく、作品をどのように読むかである。

### ■第二次【学習課題に沿った読み】

- ・作品の全体を大まかにとらえる。
- ・中心人物が、物語の始めと終わりでのように違うか、変容をとらえる。
- ・中心人物が「いつ」「どのように」「なぜ」変容したのかを考える。
- ・自分の考えを友達と交流して深める。
- ※自分の考えは、必ずノートに記述させてから話し合わせる。友達の考えをすべてメモする必要はない。顔を上げて発言者の話を聞く事に集中させる。後から自分にとって必要なものだけを赤鉛筆で書き加えることで、友達の考えを十分に取り入れることができる。

### ■第三次【発展読書・学習の振り返り】

- ・新美南吉の他の作品を「ごんぎつね」と比べながら読み、気付いたことを話し合う。
- ・学習を振り返り、学習で深められたことや自身の学習の様子について、まとめたり、感想を書いたりする。

### ◆作品全体のとらえ方

―場面を短い文で表す―

「ごんぎつね」は、6つの場面で構成されている。そこで、場面を短い文でとらえる活動を行い、作品全体をとらえる。できるだけ一文にまとめ、文末は登場人物の体言止めにする。

### 【中心人物「ごん」について】

- ①兵十にいたずらをしてうなぎをうばうごん
- ②兵十の母親が死んだのは自分のせいだと考えるごん
- ③いわしやくりやまつたけでつぐないをするごん
- ④兵十と加助の話をかくれて聞くごん
- ⑤兵十と加助の話を聞いて引き合わないと思うごん
- ⑥兵十に火縄銃でうたれるごん

### 【対人物「兵十」について】

- ①とったうなぎをぬすまれる兵十
- ②おっかあ（母親）の弔いをする兵十
- ③いわし屋になぐられる兵十
- ④加助にくりの話をする兵十
- ⑤「神様がくりをくれた。」と信じる兵十
- ⑥火縄銃でごんをうつ兵十

※丸数字は、場面を表す。ノートの上段をごん、下段を兵十として、表に整理するとよい。

このように、単元の始めに作品全体を大まかにまとめることにより、物語の展開（場面のつながり）と、中心人物・対人物の言動を焦点化してとらえることができる。

### ◆中心人物の変容を問う発問の工夫

―作品構造や場面相互の関連を考えながら読むための発問をする―

中心人物の変容についての発問は、作品全体の構造や場面相互のつながりを考えさせる上で、大変有効である。

「ごんぎつね」では、村人や兵十にひどい

いたずらをしていた「ごん」が、兵十の所へまつたけやくりをもっていくようになる。つぶやきの中には、反省とも後悔ともとれる言葉が出てくる。このような言動の変化は心情の変化があったからにはほかならない。「ごん」の変容について、「いつ」「どのように」「なぜ（何のために）」を中心に発問を組み立てる。

#### <主たる発問の例>

- 「ごんぎつね」は、どのような物語だと言えるか（まとめられるか・表せるか）。  
※単元の最後にも、同じ発問をすると児童の読みの深まりがよく分かる。
- はじめのごんと終わりのごんは、どのように変わったのか。
- ごんのつぐないは、いつはじまったのか。  
※いくつかの叙述が挙げられ、それぞれの根拠について、活発な交流になる。
- いわしを投げ込んだことと、くりやまつたけをもっていったことは、どのように違うのか。  
※ごんの行為の質の違いを考えさせるため、叙述を読み比べる。
- ごんがくりやまつたけをもっていったのは、何のため（だれのため）か。
- うたれたごんは、どのような思いで横たわっているのか。  
※この場面では、兵十の心情も考えてみたい。

#### ◆意見交流のさせ方の工夫

##### 一つながって発言させる一

新学習指導要領では、「自分の考えの形成及び交流」も重視されている。

自分の考えをもてるのだが、発言がつなが

って（絡み合って）いかない、考えが深まっていかないという声をよく聞く。中学年の意見交流のキーワードは「つなげて話し、つなげて考える」である。次のようなつなげ方を指導するとよい。

- ・初発の感想につなげる。
- ・友達の考えにつなげる。
- ・前後の場面とつなげる。

何のために話し合うのかという目的意識をもたせ、児童の思考が停止したり、混乱したりしたら、迷わず授業者が介入し、整理する必要がある。

#### ◆評価の工夫

##### 一児童が自分の学習をメタ認知する一

評価は、教師による評価と児童自身による評価に大別される。

教師による評価は、主として授業での発言とノートへの記述から行う。学習課題に対する考え、深めた考えを、具体的に書けるよう指導しておく必要がある。抽象的に、簡単に、短くしか書けない児童は、書き方のモデルを示して、詳しく書くことを習慣づける。ノートは毎時間集め、必ずコメントを入れて、次時の指導に役立てる。

単元の終末には、初発の感想と比較して、まとめの感想（読み深めたこと・作品の解説）と、学習の仕方や成果に関する感想を書かせる。

児童に学習を客観的に振り返らせ、どんな力を使って読み、どのように思考が深まり、どんな力がついたかをメタ認知させる必要がある。

市販のワークテストでは、多様な読みを測るのは難しい。しかし、揺れのない部分の読みの評価には有効である。設問に正対して答えさせることを徹底して指導することが大切である。



## 第2学年の算数的活動例

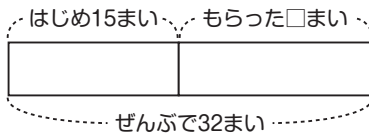
算数的活動(1) オ「加法と減法の相互関係を図や式に表し、説明する活動」

色紙が15まいあります。何まいかもらったので、ぜんぶで32まいになりました。もらった色紙は何まいですか。

32 - 15という正しい式を発表させ「これでいいですか?」と問わせる授業をよく見かける。子どもたちは元気に「いいです」と答え、先に進んでいってしまうのだが、これでは算数的活動のある授業とは言えない。

逆思考と呼ばれるこの問題は「ぜんぶで」という言葉があるので32 + 15のような誤答が考えられる。

正しい式を書いた子どもは言葉で一生懸命説明するが、言葉だけでは理解するのが難しい。そこで、視覚的に分かる図が有効になってくる。



教師は「もらった枚数を□と表してみましよう」と指導することで、子どもはこの図を用いて説明することができる。

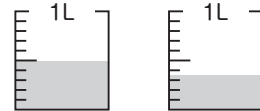
この図のよさは、たし算の場面とひき算の場面が一度に表せることである。したがって、たし算の式を立てた子どもも、 $15 + \square = 32$ という式を通して誤答に気付くことができるのである。そして、たし算とひき算の相互関係から□を求めるにはひき算で求められることが理解できるのである。

たし算かひき算かを説明するのに、「ぜんぶで」「のこりは」というキーワードに頼るのではなく、このような図を用いる活動を取り入れることで、立式の根拠だけではなく、たし算とひき算の相互関係も理解できるようになるのである。

## 第3学年の算数的活動例

算数的活動(1) ア「整数、小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動」

0.5L入りのびんの牛乳と0.3L入りのパックの牛乳があります。あわせて何Lありますか。



$0.5 + 0.3 = 0.8$ という答えを求めるのは難しいことではないが、言葉だけで説明するのは案外難しい。しかし、上のような図があれば、目盛りを読むことで $5 + 3 = 8$ ということが視覚的にわかる。

ここで、教師は「何が5つ分なのか」を問う。0.1が5つであることもこの図から明確である。そこから「0.1の5つ分と0.1の3つ分をたすと0.1が8つ分になるという」小数の加法の意味と計算の仕方が理解できるのである。

同じように分数の加法においても、「何が5つ分なのか」を問えば、 $\frac{1}{10}$ が5つ分であることが分かる。そこから、「 $\frac{1}{10}$ が5つ分と $\frac{1}{10}$ が3つ分をたすと $\frac{1}{10}$ が8つ分になるから答えは $\frac{8}{10}$ 」ということが分かり、分母はそのまま分子だけをたすという分数の加法の意味と計算の仕方が理解できるのである。

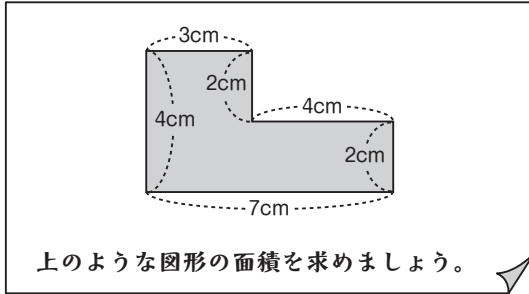
また、このように、同じ図を使って説明することで、小数の場合は0.1を単位とすることで、分数の場合は単位分数を単位とすることで整数の加法に帰着できるというよさに気付くことができるのである。

小数は小数、分数は分数と別な計算と考えがちな場面であるが、このように図を使って説明する算数的活動を取り入れることで、整数、小数、分数を統合的にみることができるようになるのである。



## 第4学年の算数的活動例

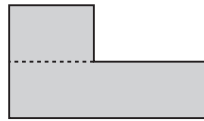
算数的活動(1)イ「長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動」



複合図形的面積を求めるアイデアとして長方形に分解したり、加えて長方形にしたりするものがある。長方形に分解する方法も何通りもあり、多様な考えができる場面である。

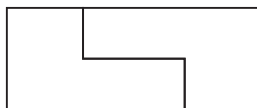
このような場面では、自分の考えを表現する活動に加え、友達のことを読み取る活動も取り入れることが大切である。

例えば、右のように上下2つの長方形に分解した児童の図だけを提示し、どのように考えたのかを他の児童に言葉で表現させたり、式で表現させたりすることである。



また、 $4 \times 7 - 2 \times 4$ という式だけを提示し、どのような考えかを他の児童に図にかかせたり、言葉で説明させたりすることである。

このように求積の方法を表現させたり、読み取らせたりする活動を取り入れることで、コミュニケーションを通じた学習の楽しさが経験できるのである。また、複合図形の数値を工夫することで、下図のような考えもできる。これは倍積変形の考えで、第5学年で学習する三角形や台形の求積方法の素地となる。



## 第5学年の算数的活動例

算数的活動(1)ア「小数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動」

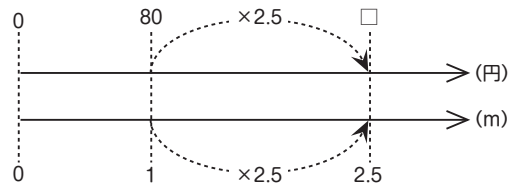
1 m 80 円のリボンを 2.5 m 買うと、代金はいくらですか。

「このリボンを 2 m 買うと式は  $80 \times 2$  です。だから 2.5 m 買うと式は  $80 \times 2.5$  です。」

という説明をさせて、すぐに計算の仕方に進んでしまう授業がよくある。

整数のときに成り立つから小数でも成り立つというのは形式的な考えで、小数の乗法の意味に触れているとは言えない。整数の乗法は「1つ分 $\times$ いくつ分=全体の数」あるいは「何倍かにあたる大きさを求める計算」という学習をしてきている。

しかし、小数の乗法では 2.5 個分という見方ができなくなる。そこで、乗法の意味を拡張する必要が出てくる。その説明をするためには数直線が必要である。



この数直線から「長さが 2.5 倍になれば、値段も 2.5 倍になるから、 $80 \times 2.5$ 」という説明を引き出すことができるのである。比例の学習をしていれば、「長さ」と値段は比例している」という説明もこの数直線を説明するのに有効である。

このように、数直線を用いた算数的活動を取り入れることで、整数や小数の乗法の意味は「何倍にあたる大きさを求める計算」としてまとめることができるのである。さらに割合の学習でも数直線を用いることによって「基準となる大きさ $\times$ 割合=割合にあたる大きさ」とさらに拡張され、乗法の意味が一般化されていくのである。

## 第6学年の算数的活動例

算数的活動(1)ア「分数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動」

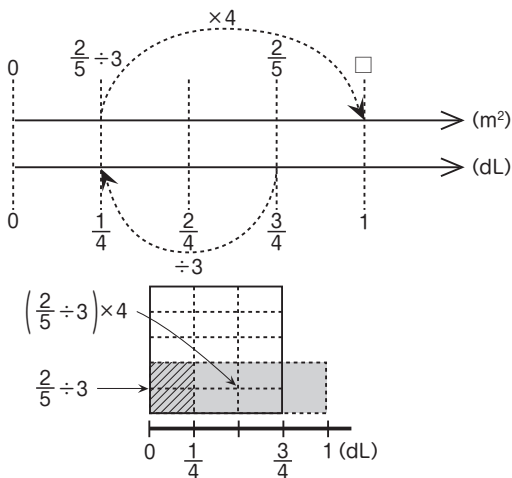
$\frac{3}{4}$  dLのペンキで $\frac{2}{5}$  m<sup>2</sup>の板をぬれました。  
このペンキ1dLでは何m<sup>2</sup>ぬれますか。

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ の計算の仕方を考える場面では、「分数でわる計算は、わる数の逆数をかけます」というやり方にいたるまでの過程を説明できるようにすることが大切である。そのためには、言葉や図、数直線と式を結びつけながら説明させるようにする。

例えば「 $\frac{1}{4}$  dLでどれだけぬれるのかを求め、それを4倍すれば1dLでぬれる面積を求めることができます。」という言葉だけの説明ではびんとこない児童も下図の数直線や図を示したり、

$$\frac{2}{5} \div 3 \times 4$$

の式と関連させたりしながら聞くことで視覚的にも理解しやすくなるのである。



また、除法の性質を利用した考えの場合

$$\begin{aligned} \frac{2}{5} \div \frac{3}{4} &= \left( \frac{2}{5} \times 4 \right) \div \left( \frac{3}{4} \times 4 \right) \\ &= \frac{2 \times 4}{5} \div 3 \\ &= \frac{2 \times 4}{5 \times 3} \end{aligned}$$

のように途中の計算をしないうえ考え方を提示することで、わる数の逆数をかけていることを見つけられるようになるのである。

### ●思考力・表現力の評価のポイント

思考力・表現力の評価は自力解決のときにどのような考えかを見取る場面と、友達の考えをどのように理解したかを見取る場面、学習の終末にどのようなまとめをしたかを見取る場面の3つがある。

自力解決あるいは話し合いの場面では、図や数直線が用いられる。したがって、図や数直線が活用できるように予め指導しておくことと、学級で共通の道具にしておく必要がある。

例えば、第2学年の事例に示した図を見童が知らなかったら、言葉だけの説明となってしまう、十分な理解が得られない。したがって、自分の考えを表現するのに必要な図はかけるようにしておくこと、その図を使って説明できるように指導しておくことが大切である。また、児童によって図のかき方が違ったりしたら、図のかき方についての説明活動になってしまう、本時のねらいを達成することができない。

また、話し合いの場面で評価するには児童に発表させるだけではなく、友達の考えのよいところ、なるほどと思ったことについてノートにメモするように指導することも大切である。さらに、学習の感想を書かせ、本時で何が分かったのかなどについて書くようにし、自力解決のときに気がつかなかった友達の考え方のよさに気付いたかどうかを判断し、適切な評価をすることが大切である。

なお、十分満足、概ね満足、努力を要する状況にあるかは評価基準を作成し、目標に準拠した適切な評価をすることが望まれている。

### 参考資料

- ・文部科学省「小学校指導要領解説算数編」平成20年8月
- ・中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成22年3月24日

# 子どもの思考の過程が見え、 的確な評価ができる授業展開と板書

## 授業のねらいと概要(90分授業)

本時は、振り子の一往復する時間は糸の長さによって変わることを実験によって明らかにし、運動の規則性について考えることをねらいとする。実験の計画やその過程で気付いたこと、分かったことをノートにかき表すこと、それをもとにして友達と話し合っ、運動の規則性についての考えを深める活動を重視する。

### 本時の問題解決の流れ

#### 問題場面から本時の課題を把握する

- ・振り子の運動の変化に気付く。
- ・1往復の時間の長短に疑問をもつ。
- ・時間を短くする方法を調べるというめあてを明らかにする。

#### 予想し、実験の計画を立てる

- ・条件を考えて実験の計画を立てる。
- ・実験図をかき、実験の準備をする。

#### 計画にそって実験する

- ・実験を進める。
- ・実験の様子や気が付いたこと、結果などを記録する。

#### 実験結果を発表し、集団で検討する

- ・結果やそれに基づく考えなどを説明し合う。
- ・比較・検討し、共通点や相違点を明確にする。

#### 結果を整理し、考察する

- ・結果から分かること、言えることをまとめ、自分の言葉で書く。

10月25日

#### めあて

- ・ふりこの1往復する時間を短くするには、どうしたらよいただろうか。実験で調べよう。

#### 予想

- ・おもりの重さを変えればいいのか。
- ・糸の長さを変えればいいのか。

#### 実験の計画

	変える条件	変えない条件
①	おもりの重さ	糸の長さ
②	糸の長さ	おもりの重さ

#### 役割分担

- ① 時間を計る。
- ② ふりこを動かす。
- ③ 記録する。
- ④ 計算する。



## 1 「めあて」を明確にする。

前時までの学習内容や実験の計画をもとに、本時では何を明らかにするのか、子ども自身の課題意識を高めるようにする。

## 2 結果の予想、実験の見通しをもたせる。

結果を予想したり、実験方法の見通しをもったりすることは、既習の内容や既有的経験を駆使して、解決の方策を考えることであり、思考力を高める絶好の場面である。実験の見通しがもてるとその後の活動は主体的なものとなる。

# 理科授業の板書 ここがポイント!

- ◎「実験の目的→予想→実験の方法→結果→考察」の流れが分かるようにかく。
- ◎実験の結果や観察したことを、比較検討できるよう資料等を掲示する。
- ◎板書と子どものノートが同じ形式でリンクしているようにする。

## 実験の結果

① 糸の長さを変えずにおもりの重さを変えた場合

A班		B班	
おもり	1往復の時間	おもり	1往復の時間
10 g	・・・	10 g	・・・
20 g	・・・	20 g	・・・

② おもりの重さを変えずに糸の長さを変えた場合

C班		D班	
長さ	1往復の時間	長さ	1往復の時間
50cm	・・・	50cm	・・・
100cm	・・・	100cm	・・・

結果から分かること

ふりこの1往復する時間を短くするには、糸の長さを短くすればよい。

## ●授業のポイント

### 3 結果を比較・検討できるようにする。

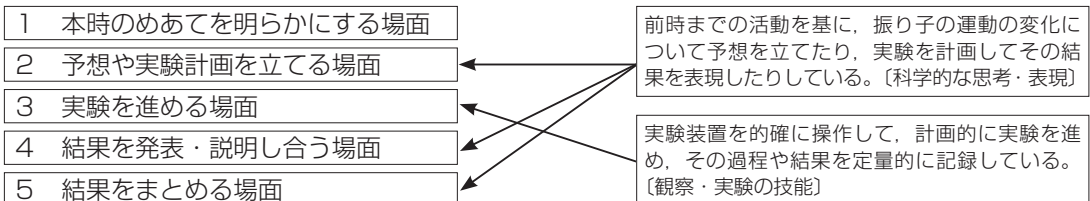
画用紙やミニホワイトボードにかかせた班ごとの実験結果を掲示し、実験の様子や結果、気づきなどを説明し合う活動を行う。取組を言語で表現させることが大切。発表・説明の話型の段階的な指導が、論理的な思考力とともに表現力を高めることにもつながる。

### 4 結果を考察し、まとめさせる。

結果を発表・説明し合った後に、本時のめあてに正対した言葉で、分かったことをノートに書かせ、確かめ合わせる。

## ●思考力・表現力の効果的な評価

子ども一人一人の考えや表現の力を見取り、それに応じた手立てを講じて伸ばすには、次のように問題解決の過程(子どもの思考過程)に沿って、評価する視点を明確にしておくとうよい。



本時では主に上記右側の2観点について、実験での行動観察やノートへの記述をもとに評価する。実験中の行動観察で全員の様子を見取ることは難しいので、ノートへの記述から思考や表現の状況を読み取って評価し、個に応じた手立てを講じるようにすることが大切である。

## 子どもが課題意識を高め、学習問題をつくる様子を評価する授業展開

### 授業のねらいと概要(90分授業)

本時は、1週間に学校から出るごみの種類や量から、ごみの処理の仕方について関心を高め、処理の仕方を知っていることや疑問を整理し、詳しく調べていこうという学習問題を作ることをねらいとする。

ここでは、2単位時間続けた展開を示すが、2回に分けて実施することも可能である。

#### 本時(90分)の問題解決の流れ

##### 身の周りの事象に注目する

- ・教室から出た1週間分のごみを見て、学校全体だったらどのくらいの量になるか予想する。
- ・学校全体から出る1週間分のごみの量や種類を知り、校内でのごみの整理の流れについて話し合う。

##### 問題となる事象に疑問や意見をもつ

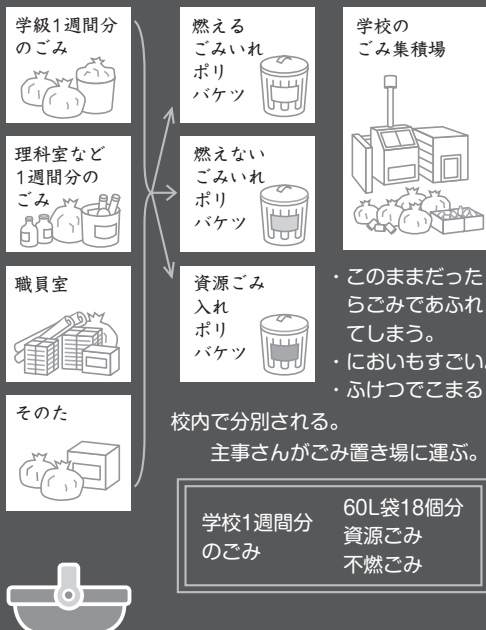
- ・学校のごみ置き場から先のごみの処理の流れについて、知っていることや分からないことなどをカードに書き出す。
- ・個々に書き出したカードをグループごとに模造紙に貼り、ごみの処理のされ方で分からないことなどを書き加える。

##### 疑問などを集約して学習問題を作る

- ・グループで整理した詳しく調べたいことを話し合い、単元で追究していく学習問題を作る。

6月25日

—学校から出る1週間のごみの種類や量、集められ方—



#### ●授業のポイント

##### 1 具体事例から社会的な事象に出あわせる。

日常何気なく行われているごみの片付けには意図があること、学校からはかなりの量のごみが出ているという事実を認識し、ごみの処理の仕方への関心を高める。その際、実物や校内の写真などを見て考え、言葉で表現させることができるような板書を心がけたい。

##### 2 意図的な処理の仕組みを整理させる。

子ども自身が行っていること、教員や主事等が行っていることなどを明確にし、掲示された資料を比較したり、関連付けたりさせる。

# 社会授業の板書 ここがポイント!

- ◎日常の社会事象に感動的に出あわせる資料の見せ方・掲示の仕方を工夫する。
- ◎自分たちの生活と関連付けながら考えられるよう、思考の流れを表す。
- ◎板書と子どものノートが同じ形式でリンクしているようにする。

学校のごみ置き場に集められたごみはこのあとどうなるのだろう。

予想

- ・処分場に運ばれる?
- ・リサイクルもしているよ?

燃やされてはいになる?

- ・清掃車が運ぶ?
  - ・燃えないごみは?
- ・いつ運ぶの?
  - ・お金がかかるね。
- ・誰がやっているの?
  - ・残ったはいはどうするの?
- ・全部いっしょかな? ・家のごみも同じかな?

リサイクルされて、また使われる?

ごみの処理の仕方にははっきりしないことが多い

学習問題

安全で安心して生活できるように、ごみはどのような処理をされたり、リサイクルされたりするのか、詳しく調べてパンフレットにまとめよう。

## ●授業のポイント

### 3 分かっていることと分からないことを明確にする作業を行う。

学校のごみ置き場から先のごみの処理の仕方について、生活経験を基に予想させ、カードに表現させる活動を個々に行わせる。それをグループで交流させながら、模造紙に整理する作業を通して、説明し合いながら考えを深めさせる。

### 4 はっきりしないことをはっきりさせたい、調べたいという学習問題を作る。

グループで整理したことを全体で発表し合い、はっきりしないことを中心に教師が板書する。それらを集約する形で言葉をまとめ、学習問題を作る。

## ●思考力・表現力の効果的な評価

子ども一人一人の考えや表現の力を見取り、それに応じた手立てを講じて伸ばすには、次のように学習活動の流れ(子どもの思考過程)に沿って、評価する視点を明確にしておくとうい。

1 校内のごみ処理の仕方を整理する場面

2 学校から先の処理の仕方をカードに書き出す場面

3 グループで整理する作業場面

4 学習問題を作る場面

ごみの処理について関心を持ち、知っていることを進んで表現したり、カード整理の作業に意欲的に取り組んだりしている。〔社会事象への感心・意欲・態度〕

ごみの処理の仕方について経験を基に予想して表現したり、疑問点を整理して学習問題を考えてりする。〔社会的な思考・判断・表現〕

本時では主に上記右側の2観点について、実験での行動観察やノートへの記述をもとに評価する。実験中の行動観察で全員の様子を見取ることは難しいので、ノートへの記述から思考や表現の状況を読み取って評価し、個に応じた手立てを講じるようにすることが大切である。

# 通知表がこう変わる、 授業がこう変わる

## 指導要録の重要性

平成23年度からの新学習指導要領の完全実施に伴って、指導要録が改訂されます。学習指導要領が授業を通して子どもたちに身に付けさせたい内容を示したものであるのに対して、それを評価した結果を記録として残し、次の指導に役立てていくものが指導要録です。いわゆる「指導と評価の一体化」の関係の原点であり、いずれも大変重要なものです。

しかし、学校現場では、指導要録の趣旨が十分に理解されているとは言えません。また、新規採用教員の大量採用時代を迎え、子どもの指導に直接的でない事務作業として、形式的に行われやすい状況も生まれています。

### 指導要録の重要性

子どもの学籍や指導の過程、その結果の要約を記録し、その後の指導や外部への証明などに役立たせるための原簿となるもので、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿でもあります。

学籍の記録は20年間、指導の記録は5年間、学校で保存しなければならないことになっています。

公簿としてその作成と管理が大変重要である指導要録の改訂に伴い、学校として留意すべきことを確認しておく必要があります。

ここでは、私たち教員が身に付けておかなければならない、指導要録についての基本的な知識や評価に関する基本的な考え方、それに基づく授業のスタイルの在り方、要録に準ずる形で各学校が作る通知表の意図や作成手順、などについて紹介します。

## 評価についての基本的な考え方

学校がこれから取り組んでいかなければならない事務的な作業としては、通知表の改訂があります。そのためには、その根本にかかわる学習評価についての基本的な考えを学校全体で確認しておく必要があります。

学習評価は、一層きめ細かな指導を進め、子ども一人一人に学習内容を定着させていくために行うものです。しかし、これは容易なことではありません。子ども一人一人の学習状況をどのような視点で、どのように見なければよいか、それに応じてどのような手立てを講じればよいか、指導者として明確になっていなければできないことなのです。

指導要録では、各教科の特性に応じて、学習状況を評価する観点が示されています。これらは、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価するための視点であり、授業でどのように思考・表現させ、どう見と

### 学習評価の観点の主な変更点

- 関心・意欲・態度：これまでと同様。
- 思考・判断・表現：このうち、「表現」については、基礎的・基本的な知識や技能を活用して考えたり、判断したりした経過や結果を言語活動（説明・論述・討論など）を通じて評価するようにする。
- 技能：これまで「技能・表現」で対象としていた内容を引き継ぐ。資料から情報を収集・選択して読み取ったり、それらを用いて図表や作品等にまとめたりする力を「技能」とする。
- 知識・理解：これまでと同様

って評価していくか、その方法を工夫・改善していく拠り所となるものでもあります。

### 評価の観点が変わることによって何がかわるのか？

新しい学習指導要領では、思考力・表現力を伸ばす指導を一層重視していくことが明確に示されています。特に、言語力を高める指導が全ての教科・時間で強調されています。つまり、子どもが自ら課題意識をもち、考え、それを表現する活動が意図的に仕組まれた授業を実践していくことが、学校現場に求められているのです。

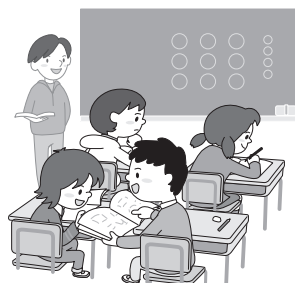
これを受けて、前ページのように指導要領に示されている評価の観点も「思考・表現」を重視したものに変わりました。これまでの「思考・判断」が「思考・判断・表現」となり、「技能・表現」が「技能」と整理されたのです。それに伴って、各観点の内容も変わりました。例えば、理科では、従来の「科学的な思考」という観点名が「科学的な思考・表現」となり、その趣旨として「自然の事物・現象を比較しながら問題を見だし、差異点や共通点について考察表現して、問題を解決している」と改められました。各教科の具体的な観点名や内容については16・17ページを参照してください。

従って、通知表の各教科の観点や各項目の内容も変わるようになります。また、通知表での外国語活動や特別活動の記述欄等についても表記の工夫・改善が必要となります。

### 求められている授業像と評価方法の工夫

通知表の評価の項目や内容が変わるということは、当然のことですがまず、授業が変わらなければなりません。では、思考力と表現力を高める授業の効果的なスタイルとはどのようなものなのでしょうか。

前述の各教科の実践で紹介されているように、「子どもたちが主体的に考え、表現し、



互いに学び合う中で、基礎的・基本的な知識や技能等を身に付けていく授業」です。「やりなさい」と言われて子どもが「やる気」になる度合いには限界があるし、「覚えなさい」と言われて覚えたことはすぐに忘れてしまいます。子どもが、学習内容に興味・関心を高め、意欲的に問題解決する中でこそ、その後に活用できる知識や技能が身に付き、考える楽しさや表現する喜びを味わうことができるのです。

このような授業像に迫るためには、問題解決の学習過程を重視した授業を展開する必要があります。学習指導要領の各教科の解説編でも、「問題解決の過程」や「問題解決的な学習」など、授業の始めの段階で子どもが解決すべき問題を意識し、見通しをもって解決し、それを表現して友達と学び合い、まとめていく学習過程で、表現力を高めていくことの重要性が述べられています。これまで以上に「問題解決」が強調されていることを、授業実践者として強く意識して授業づくりを進めていきたいものです。

問題解決の学習過程が重視された授業では、板書とノート指導の在り方を工夫・改善する必要があります。考えを表現する活動なくして、思考力・表現力を高めることはできないからです。また、子どもがどのように考え、何を理解したか、どのような技能が身に付いたか、それら进行评估するには、ノート等に表出させてみなければ把握できません。この評価結果を次ページから示すような、「改定通知表」に反映させていくことになります。



### 観点別通知表の評価の観点とその趣旨

以下に示す表は文部科学省から示された各教科の観点とその趣旨（第5学年の例）です。観点別の通知表を作成する際には、この趣旨を反映し児童や保護者に分かりやすい文言で示すことが大切です。

また、指導要録に児童の実現状況を評価する際、これまでと同様に「十分満足できる：A」「おおむね満足できる：B」「努力を要する：C」状況に区別して記入します。通知表でもこの3段階で評価しておくことと学年末の指

導要録作成に反映させることができます。評価基準を作成し、どうしてその評価にしたのかを保護者等に説明できるようにしておくことも大切です。

なお、外国語活動は文章の記述による評価を行います。記録の観点として次の3つ示されています。通知表でもこの観点で記述しておくとういでしょう。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】  
【外国語への慣れ親しみ】  
【言語や文化に対する気付き】

[第5学年の例]

教科	観 点	趣 旨
国語	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、適切に話したり聞いたり書いたり、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。
	話す・聞く	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたり、計画的に話合ったりしている。
	書く	目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。
	読む	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら本や文章を読んでいる。
	言語についての知識・理解・技能	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を書く目的や用紙全体との関係、点画のつながりなどに注意して書いている。
社会	関心・意欲・態度	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。
	思考・判断・表現	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。
	技能	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。
	知識・理解	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。
算数	関心・意欲・態度	数理的な事象に関心をもちとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。
	数学的な考え方	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。
	技能	小数や分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形の性質を調べたり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。

教科	観 点	趣 旨
理科	知識・理解	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質、分数の意味、小数や分数の計算の意味、面積の公式、体積の単位と測定の意味、図形の意味や性質及び数量の関係などについて理解している。
	関心・意欲・態度	自然の事物・現象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見だし、条件に着目して計画的に追究し、量的変化や時間の変化について考察し表現して、問題を解決している。
	技能	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に記録している。
音楽	知識・理解	物の溶け方、振り子の運動の規則性、電流の働きや、生命の連続性、流水の働き、気象現象の規則性などについて実感を伴って理解している。
	関心・意欲・態度	創造的に音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。
	創意工夫	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。
	技能	音楽表現をするための基礎的な技能を高め、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。
図画工作	鑑賞	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴いている。
	関心・意欲・態度	自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、作りだす喜びを味わおうとする。
	発想や構想の能力	感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりしている。
	技能	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫している。
家庭	鑑賞	親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴をとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。
	関心・意欲・態度	自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付き、家族の一員として家庭生活をよりよくするために進んで取り組み実践しようとする。
	生活を創意工夫する能力	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりしている。
	技能	生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。
体育	知識・理解	家庭生活を支えているものや大切さを理解し、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
	関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、心の健康やけがの防止について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。
	思考・判断	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。
	技能	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。
	知識・理解	心の健康やけがの防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

参考資料：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成22年5月11日 文部科学省

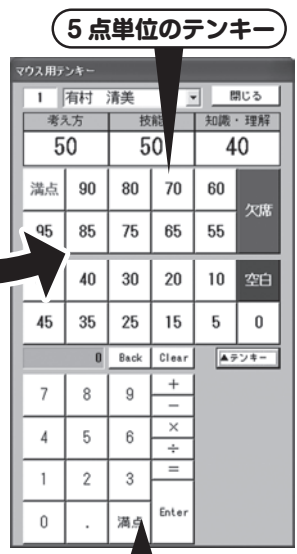
# 成績資料の作成はおまかせください!

(保護者への説明資料, 指導要録資料など)

## 1 テストの得点を入力するだけ!

**簡単!**  
**らくらく**

「マウス用テンキー」を使って、  
得点入力が簡単にできます。



テストの得点入力に特化した5点単位のテンキーと通常のテンキーで、マウスでクリックするだけで簡単に得点入力ができます。

## 2 得点集計表・成績診断シートを自動的に作成!

テストの得点を入力するだけで、得点集計表・成績分析シートの各種資料が自動的に作成されます。作成された資料は、指導や保護者への説明にお使いいただけます。

**保護者への説明も万全です! →**

すべての資料がExcelファイルで出力できるので、自由に加工することができます。



# 3

## 通知表・指導要録資料が簡単作成！**アップデート**

ひまわり先生に入力したテストの得点、評価、児童情報をもとにして、通知表・指導要録資料を作成することができます。

通知表の作成については

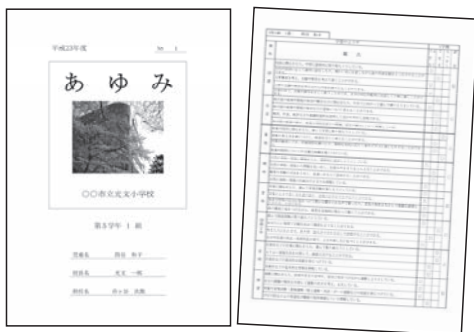
**A** 全校で統一した書式で通知表を作成することができます。

★書式作成ウィザードを使って、学校指定版の通知表を作成することができます。

**B** 個人で通知表の下書きとしてご利用いただけます。

- ひまわり先生に入力した「テストの成績」を参照しながら、評価・評定を編集できます。
- ひまわり先生に入力した「出欠の記録」や「特活の記録」を転記できます。

通知表



指導要録資料

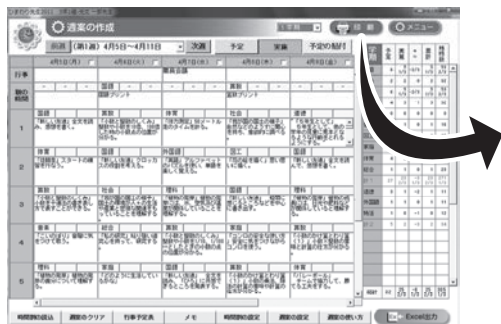


# 4

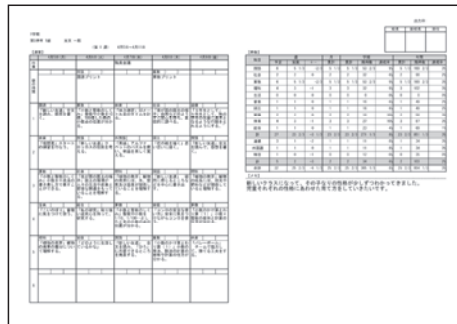
## 週案の作成もOK！**バージョンアップ**

設定した時間割をもとに、週案を作成することができます。

【週案作成画面】



【週案印刷例】



- 設定した時間割から自動的に教科を表示して、週時数、過不足、累計時数、残時数を計算します。
- 授業案の入力欄を右クリックすると、設定した単元名を表示・選択できます。
- 時数は1コマを、1, 1/2, 1/3で計算することができます。
- 科目は最大30まで登録でき、朝の時間、行事予定、承認印等の有無が選択できます。
- 予備時間(7時間目やスキルタイムなど)や土曜、日曜を含めた週案も作成できます。

# 業務改善の切り札 「ひまわり先生」



札幌市立米里小学校 教務主任 紙谷健一

## ●●● はじめに

本校では通知表をPCで作成するようになってから、2年目に突入している。そして、光文書院の「ひまわり先生」を導入したのは、今年度からである。ここまでの経緯や、実際の使い方、また今後の展望などについて述べていくことにする。

## ●●● 授業時数の増加と業務の改善

平成23年度から新学習指導要領が完全実施となる。今年度は、移行期の最後の年となる。

当然、この職業についていれば、誰もが実感していることと思うが、過去減り続けてきた授業時数が今回の改訂で増加することになり、子どもを家に帰してからの仕事時間の確保が難しくなっている。

そこで、本校では「業務改善」というテーマを掲げ、様々なことに取り組んできた。その一つが、PCでの通知表作成であった。

それ以前から、通知表の所見の下書きをワープロソフトで打つということは多くの教師が行っており、それをそのまま通知表にプリントアウトできれば…という思いを持っていたはずである。少なくとも私はそう願っていた。手書きは、確かに温かさが伝わるという側面もあるわけだが、下書きから書き写すという作業はかなりの時間を必要とするのである。

PCで印刷をすることができるとなれば、所見にかかる時間を半分にすることができる。まさしく業務改善なのである。

## ●●● 校長のリーダーシップがあると

なかなか変更が難しいと言われていたPCでの通知表印刷であったが、校長が業務改善として進めるという方針を打ち出したことがきっかけとなり実現した。

さらに、PC印刷初年度は、エクセル操作に精通している校長自らがマクロを組んだものであった。当時、私は担任をしていたが、この画期的な変更を大変喜んだ者の一人であった。

「改善」と一言で言ってみたものの、通知表の所見では2種類の「改善」が見られた。一つは、前述した時間の短縮化である。清書の時間をカットすることができる。もう一つの「改善」はクオリティのアップである。手書きと考えると、意識してか？無意識か？字数を多少セーブしてしまうことがあった。どうしても、書き写す作業のことを考えてしまうのである。しかし、手書きの清書がないと思うと、より多くの情報を所見に入れることができるのである。これは、実際に取り組む中で発見した改善でもあった。

しかし、このシステムの難しい点は、エクセルマクロ等に詳しい人が職場になくなると、使えなくなることである。担当がいなくなると使えなくなる不安定なシステムを通知表業務の中心に据えることは難しい。

そこで、今年度から光文書院の「ひまわり先生」を導入することになったのである。この決定も、校長のリーダーシップによるものであった。前年度に、PCでの作成に慣れてきた職員も何のためらいもなく「ひまわり先生」での作成に同意した。

## ●●● 職員用PCネットワーク

さらに通知表の電子化に拍車をかけたのは、札幌市内の小学校に一齐に業務用パソコンが整備されたことである。職員室の一人一人の机の上にノートパソコンが置かれることになった。これらのPCは職員室内のネットワークに接続されており、サーバーの情報を共有することができる。誰もが作業できる環境が整ったのである。



しかし、問題もあった。公務用PCということであるから、当然と言えば当然なのであるが、セキュリティ関連や違法ソフトなどの利用が行われないように、ソフトウェアのインストールができない設定になっているのである。フリーソフトなどのインストールも自由にはできない環境であった。そこで、注目したのが「ひまわり先生」のUSB版であった。これは、USBメモリーにプログラムの本体とデータを置いたまま利用することができる。つまり、PCのHDDにインストールすることなしにソフトウェアを活用することができる優れたもので、今の環境ではとてもありがたいものなのである。



そこで、パスワードをかけられるUSBメモリーを担任の数だけ購入し、その中に「ひまわり先生」をインストールした。評価情報を電子化する上で一番の問題点は、情報の流出である。評価情報は重要度1の情報と定め、このUSBメモリーは学校からの持ち出しを禁止とした。USBメモリーの保管BOXも職員室に設置し、誰のメモリーが使われているのがはっきりと分かるようにした。

## ●●● 光文書院の手厚いサポート

さらに、「ひまわり先生」の嬉しいところは、フリーソフトにもかかわらず、手厚いサポートが受けられるということである。



導入を決めると直ぐに、わざわざ東京から開発の担当者が本校に来て下さった。そして、職員室での「ひまわり先生」の使い方の研修会が行われた。初めて使うソフトということで、本校職員も真剣に研修に取り組み、多くの質問もやりとりされた。USBメモリーの不具合による、評価情報の喪失を防ぐためのバックアップの仕方なども、このやりとりの中で教えていただいた。

さらに、本校独自の通知表の形に「ひまわり先生」の印刷形式をカスタマイズしてもらえることにもなった。昨年度までの、通知表の形式を渡すと、本校専用の「ひまわり先生」を作って送ってもらうことができた。

また、通知表の完成までの間に生じた、様々な疑問や問題点に関しても、電話サポートでしっかりと対応をしていただいた。職場での通知表の担当は私であったが、電話サポートがなかったら通知表を発

行できなかったかもしれない。

初めての通知表の発行後も、担当者に来校いただき、さらなる「ひまわり先生」の改善のための要望を聞いていただいた。

担当者がいなくなると使えなくなる、独自のシステムとは違い、しっかりとサポートがあるという安心感を持つことができた。「ひまわり先生」を通知表業務の中心システムとして据えても大丈夫のようである。

## ●●● 作業時間の確保のために

「ひまわり先生」を使うためには時間的な工夫も必要になってくる。個人情報流出を防ぐためにはUSBメモリーを持ち出すことはできない。つまり、作業は職場でしかできないことになる。前述したように、子どもを家に帰してからの仕事時間の確保が難しいと言っている中で、職場でしかできない通知表作業というのは、自分の首を絞めることになりかねない。だが、どんな理由があれ、本来、個人情報を持ち出すことは、厳禁なのである。

そこで、通知表提出までの2週間は、放課後に一切会議を入れないということにチャレンジしてみた。作業する時間をしっかりと確保したのである。もちろん、会議も何もない時間を作るためには、色々な仕事を盛り込んだ密度の濃い時間も必要になってくるわけである。具体的には、それまで毎月行っていた職員会議の回数を減らし、多い時は、3ヶ月分をまとめて行うなどの工夫もした。職員会議が減るということは、その準備のための会議も減るということになる。そして、会議の提案内容も数ヶ月先の提案となる。そんな先のことを説明されても忘れてしまうという考えもあるのだが、日々行われる職員用PCネットワークの掲示板を利用し、直前には細かい説明や、確認をすることにより、今のところ、問題なく業務は進んでいる。さらに、次年度、移行期間が終了し、さらに授業時数が増えるので、職員会議そのものの本質というものも考えていかなければならない。今回の、「ひまわり先生」の導入が、会議類の精選への第一歩ともなったと言えよう。

## ●●● 通知表発行に向けて

期限までに、各担任にはUSBメモリーを使用し、作業を進めてもらう。成績や所見は一覧表形式で紙媒体での提出となる。そこで、内容を確認した後、最終的にはUSBメモリーでの提出となる。それに、教務担当が形式上の調整を加え、印刷となる。印刷は、担当が一元管理することにより、さらなる確認をすることもできる。また、レーザープリンターを利用するので、データさえできてしまえば、本当に短時間で清書を済ませることができる。

あとは、ポケットファイルに差し込んで、通知表のできあがりである。

## ●●● 注目を集めるPCでの通知表作成

新しく教務主任になった者の研修会があった。ここでは、それぞれの業務での工夫や悩みなどについて語り合う場があった。そこで、本校のPCによる通知表作成について、多くの質問をいただいた。研修会終了後も、具体的にどのように進めているのか話を聞きたいという方に取り組みを説明した。多くの学校が、情報を欲しているようである。また、本校の取り組みを知りたいということで、学校を訪問したいという依頼も入っている。通知表の電子化の流れは確実に来ている。

## ●●● 今後に向けて

「ひまわり先生」はとても有用なソフトウェアであるが、あくまでツールである。評価において一番大切なのは、その内容である。何のために評価を行うのかという考え（私は、評価が指導をコントロールするのだと考えている。）、評価の妥当性を確保する評価規準（基準）の整備、教師の評価の目を高める研修、などしっかりと取り組んでいかなければならない。そのための時間確保のためにも、「ひまわり先生」が必要になるのである。

# 「ひまわり先生」の導入に関して



石川県白山市立松陽小学校 教諭 寺 雅彦

## ●●● 1. 導入に向けて

校務の多様化、新学習指導要領の実施など、忙しさを増す学校環境において、事務作業を軽減し、子どもたちに向けた時間を確保するために、「ひまわり先生」を導入しました。

## ●●● 2. 導入に向けての取り組み

導入にあたっては、パソコンが苦手な先生でも使いやすいソフトであることを重視しました。

### ①ステップ1

先生方の意見を聞く際には、「パソコンですべて印刷する方法」と「パソコン印刷と手書きを併用する方法」の2つの選択肢を提案しました。

### ②ステップ2

通知表の形式を、「保護者からの返却を前提としない形式」と「今までのように保護者と担任とでやりとりをする形式」のどちらにするか話し合いました。結果としては、書式の大幅な変更も伴うため、保護者が効果を実感できるようファイル形式にし、年間記録にもなるようにしました（ファイルは100円程度のものとし、通知表の見方なども入れました）。

### ③ステップ3

業者の方に講習会を開いてもらい、使い方の理解を深めるとともに、データをサーバーに保存する設定もしていただきました。また、テストの設定、成績処理に伴う質問などにも答えていただきました。

## ●●● 3. 使用してみたの感想

観点別に集計されるデータに各先生の判断を加えて評価が出来ますし、小テストの点数も単元テストとのウェイトを設定して反映することができます。また、級外の先生のデータも取り込める点は、学校の実態をよく把握していると感じました。

児童別やクラス全体など多面的な分析ができますし、成績資料を活用すれば、個人懇談や通知表を渡す時に、ポイントを掴みやすく、大きな時間軽減になりました。

また、「こういう機能が欲しい」という要望についても、少しずつながら改善してくれるので、今後のバージョンアップにも期待しています。

## ●●● 4. 1学期を終えて

通知表をファイル形式にすることで、成績だけではなく、通知表の詳しい見方、1学期の活動の様子などを入れ込むことができました。ただ、1回1回ファイルに挟む作業などは、まだ改善の余地があるかと思います。

## ●●● 5. その他

通知表の形式を変えるにあたっては保護者の理解を得ることが大切です。

また、同時にパソコンを苦手とする先生への配慮も忘れてはいけません。

保護者・教師間のやり取りを緊密にし、新しい通知表を定着させていきたいと思っています。



# 「ひまわり先生」の 利点と課題 ……導入から2年を経て



金沢市立四十万小学校 教諭 坂上則子

## ●●● 1. はじめに

金沢市は、前・後期制を採用しています。通知表は年2回ですが、本校では、夏休み・冬休み前に「わたしのあゆみ」という形で国語・算数の成績と生活の様子を保護者に伝えています。3学期制の時に比べて、成績処理の回数が増えましたので、教職員の負担を減らすことを目的に、昨年度から「ひまわり先生」の使用を始めました。

## ●●● 2. 昨年度の状況

### ①「ひまわり先生」の導入

以前から、エクセルなどで成績処理をしている教師もいましたが、成績処理ソフトを使用しながら「ひまわり先生」の使い勝手がよくなったことと業者の方からの紹介もあり、校長の許可も得られました。そこで2年生以上の通知表を「ひまわり先生」で作成することになりました。1年生は通知表の形式が違うことから、従来の手書きの通知表を使うことになりました。また、休み前に出す「わたしのあゆみ」は、国語・算数のテストの点数をそのまま伝えるという形になりました。

### ②使ってみると

まず、各教師のPCに業者の方に「ひまわり先生」をインストールして頂き、教師全体に使い方を説明して頂きました。業者を固定せずいろいろなテストに対応できることがとても好評でした。

夏休みの前までは、実施したテストの点数を入れ、評価基準について話し合いをしました。評価基準を教科ごとに変更できることも便利で使いやすい

という声が出ていました。

### ③通知表作成に向けて

夏休み中に通知表の観点の内容を学年ごとに見直しました。このときに、「ひまわり先生」に入っていた内容を参考に見直したのですが、窓口を1つにせず各学年がそれぞれ入力したため、何度もやり直すことになってしまいました。時間はかかりましたが、コンピュータ操作が得意でない教師もデータ管理について理解するいい機会となりました。

「ひまわり先生」では、評価をつける際に、テストの点数のみで評価するのではなく、ノートや小テストなどの評価補助簿からの評価を加えて変更することもできます。しかし、昨年度は、評価を変更した場合、一人一人のデータが変わらないようにチェックを入れる必要がありました。操作に慣れていないことと、教科ごとにチェックを入れることができなかったため、終了時にチェックを入れるのを忘れ、変更したデータが消えてしまうということがよくありました。そのため、何度も見直しをする必要がでてしまいましたが、「あー、また消えた」「これ、どうしたらいい？」など教師間のコミュニケーションは大変活発になりました。また、データを入れることができた教師がまだ終わっていない教師へ教えたり、評価について話し合ったりすることもできました。通知表作成は大変でしたが、印刷はレーザープリンタを使用し、1クラス10分もかからずにスムーズにできました。

### ④ふり返って

1年間「ひまわり先生」を使用してみて、使いにくい点もみえてきました。しかし、これまで手書き

で細かく記入していた総合的な学習の記録などをデータとして保存できることや、一覧も作成できることなど時間の短縮が一番の利点であることを再認識することができました。

### ●●● 3. 導入2年目

#### ①これだけは・・・

今年度も継続して「ひまわり先生」を使用することになりました。昨年度混乱した機能もいくつか改

#### メニュー画面



善され、特に評価を変更した後に、教科ごとにチェックを入力できるようになったことが一番使いやすくなった点だと感じて

います。とはいえ、毎年教師の異動があることや、通知表は年2回のため、まだ使い慣れていない面もあります。そこで、新しい「ひまわり先生」をPCに入れ替える日を決め、あらためて操作の説明をして頂きました。また、見直した通知表の観点の内容の入力は一人の教師が行うこと、データを校外へ持ち出さないことなど、昨年の経験を活かし、いくつかの点を再確認しました。昨年度は、時間の削減を目指していたのですが、操作に不慣れなこともあり、最初は逆に時間がかかってしまったことがあったためです。また、夏休み前にも業者の方に来て頂き、通知表や成績を印刷するための講習会を行いました。実際にソフトを使用するとわからないことがたくさん出てきます。サポートではたくさんの方に大変お世話になりました。

#### ②通知表作成の時期に

通知表作成の時期には、業者の方に通知表作成の手順を用意して頂きました。テスト評価の貼り付けや学習の様子の一覧印刷の仕方などが大変わかりやすく説明されていました。やはりマニュアルがあると安心して作業ができました。生活の様子や総合的な学習の様子への入力も昨年度よりもわかりやすくなっていました。

#### ③ここが便利

休み前の保護者面談は、国語と算数の成績を中心に行うのですが、それまでに行ったテストの成績を印刷して活用しています。新たに成績をつける必要がないので時間の削減がはかれます。また、児童の学力のどこが弱いかわかりやすいので見やすくなりました。



総合的な学習のようすの入力画面

総合的な学習の様子の作成も便利だと思います。基本の文を作成し、文例集へ登録すれば何度も呼び出しができます。ポートフォリオのように学習を進めているときに、児童一人一人の様子を書き込んでおくと、その中から一番その児童ががんばっていたことを選んで文章にしていけるので、こまめに書き込むことが簡単にできるようになりました。

#### ●●● 4. 最後に

「ひまわり先生」を使用することで、使いたい資料や成績処理が簡単にできることはとても嬉しいことです。テストだけでなく小テストやノートの評価も工夫すれば「ひまわり先生」を使って処理することもできます。また、評価基準の軽重も設定できることなど、教師が「こんなことができたなら…」という要求にもたくさん応えて頂いています。たくさんの機能があるゆえに、初期画面から自分がしたい処理の画面へいくところが少しわかりにくいという意見も聞かれます。願わくは、さらに簡単な操作で使えるようなソフトへと発展して頂けたらと思っています。